

1. 研究主題

「社会に開かれた中学校社会科の学びをめざして」
～学びの STEAM 化と学びの個別最適化を柱として～

2. 主題設定の理由

今後の予測困難な社会の変化に対応するためには、単なる知識の取得ではなく、さまざまな情報を収集し、それらの情報を多面的・多角的に考察し、それをさまざま形で表現していくことが必要不可欠である。こうした潮流を背景に、現行の学習指導要領(平成 29 年告示)では資質・能力を育成するという方向性が打ち出された。

これを受けて、神埼支部では、歴史的分野における、①パフォーマンス課題の設定、②生徒一人一人の個別最適化のあり方を研究の柱に据え、研究を行ってきた。また、昨年度に引き続き、県の社会科部会がすすめる「学びの STEAM 化」について模索している。生徒一人ひとりの学びの機会を保障し、さまざまな意見に触れさせることで、多面的・多角的に物事を考える態度を育成することに努めたい。

3. 研究内容

- (1) パフォーマンス課題の設定について(歴史的分野)
 - ・どのようなパフォーマンス課題を設定すべきか
 - ・パフォーマンス課題を設定しにくい歴史的分野をどうするべきか
- (2) 生徒一人ひとりの個別最適化について
 - ・どのような手法を用い、一人ひとりの個別最適化された学習を保障すべきか

4. 研究経過

- 第1回 社会科研究主任会(6月20日 千代田中)
第2回 社会科研究主任会&授業検討会(11月28日 千代田中)

5. 研究の成果と課題

成果

- (1) パフォーマンス課題とその評価について
 - ・設定方法やルーブリック評価について、教員間での情報共有ができた。
- (2) 学びの個別最適化について
 - ・ベネッセのドリルパークや Kahoot!などのICTを有効にすることができた。
 - ・学びの個別最適化に向けた授業形態や教師の役割、振り返りの方法についての情報共有ができた。
- (3) その他
 - ・今年度は中高連携研究会が実施できたので、高校の先生と情報交換や交流ができた。

課題

- ・地区内の各学校すべての社会科教員が共通認識を持ち、実践することはできていない。

第1学年 社会科学学習指導案（歴史的分野）

令和5年11月28日（火）5校時

1年3組教室

指導者：木原 俊徳

1 単元名 第3章 中世の日本 鎌倉幕府の成立と執権政治（武士の政権の成立）

2 単元について

（1）教材観

本単元では、学習指導要領歴史的分野の目標（2）を受け、生徒の思考・判断・表現する力を高めていく。歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

承久の乱は、1221年（承久3年）、後鳥羽上皇が鎌倉幕府から政権を奪回しようとして起こした戦いである。武家政権である鎌倉幕府の成立後、京都の公家政権との二頭政治が続いていた。しかし、源氏が三代で途絶えたのを好機ととらえた上皇は、諸国の武士に北条義時追討の院宣を発した。ところが、北条氏と御家人の結束は堅く、思惑に反し京都を幕府軍に占領され敗れた。乱後、上皇は隠岐に流されるなど朝廷の権力は失われ、幕府に従属することとなった。同時に、鎌倉幕府の力が西国にまで及び、全国を支配するきっかけとなった。また、六波羅探題を設置し、皇位継承にも影響力をもつこととなった。

承久の乱の特徴の一つとして、後鳥羽上皇が目指そうとした社会についての考えと北条政子が目指した社会についての考えの対立を挙げることができる。朝廷の代表である後鳥羽上皇と幕府の代表である北条政子のそれぞれが、武士たちに対して身の振り方を論ずるのである。その主張には、2人の人物が目指した社会像・目指した時代像が含まれていると考えられる。このように、主張が分かれた一つの歴史的事象について、多面的・多角的に考察し、価値判断を行うことは現代を生きる生徒にとって意義あることと思われる。

（2）生徒観

本学級の生徒は、元気な生徒が多く、授業に対して意欲的な生徒が多い。授業の活動や取り組み方をみても、一問一答式の問いであれば、発言も多く正答率も高いが、複数の資料から考察し、考えたことを相手に伝えたり文章で表現したりする問いには、発言が一部の生徒に固定化しており、苦手意識をもつ生徒が多い。

そこで、授業の中に「考え・表現する場」を意識的に設定することによって、どの生徒にも考えることや表現することの楽しさを感じさせ、生徒の「社会的な思考・判断・表現」の力を伸ばしていく必要があると考える。また、本単元では、「是か非か」の態度を明確にし、グループの話し合いを行うことで、自分の考えを基に発言できるようにしたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず平安時代及び鎌倉時代の特色をとらえさせたい。次に、「1221年の承久の乱で、あなたはどちらの味方になるか考えよう。」をテーマに討論活動を取り入れ、多面的・多角的に考察させる。その活動を通して、後鳥羽上皇が目指そうとした社会と北条政子が目指した社会について、当時の御家人の立場で考えさせたい。また、1年生という発達段階を踏まえ、データから導かれる主張とそれらを結び付ける根拠を意識させながら、できる限り論理的に自らの考えを組み立てさせたい。最後に、討論の中で級友の異なる考えに触れることにより、自分の考え・価値観を吟味し、よりよい価値判断をさせたいと考える。

そして、これらの学習活動を通して、21世紀を生きる公民的資質の基礎、社会形成力・主体的な態度の育成につなげていきたいと考える。

3 単元の目標

- (1) 武士の台頭や武家政権の成立、その後の武家社会の発展に関心を持ち、意欲的に追究することができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- (2) 鎌倉幕府の成立、承久の乱、元寇後の社会的な変動を通して、歴史の流れや時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 様々な資料を適切に選択し活用するとともに、そこから考察した結果をまとめたり、わかりやすく説明したりすることができる。(知識・技能)

4 単元の指導計画

時間	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法
1	武士の成長	武士の成長過程を導入資料などから読み取っている。	武士が次第に勢力を広げたことを地方や都で起きた戦乱と関連付けて考察し、表現している。	武士が台頭した経緯について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	観察 ワークシート 発表
1	院政から武士の政権へ	源義経などの人物を中心に、源平の争いの経過について理解している。	平氏の政治の特色を摂関政治との共通点に着目して考察し、表現している。		観察 ワークシート 発表
1	鎌倉幕府の成立と執権政治	文字資料から幕府と朝廷との勢力関係、将軍と御家人との	鎌倉幕府の特色について、将軍と御家人の関係や幕府と朝廷の関係に関連付けて考察し、表現	武家政治の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	観察 ワークシート 発表

		関係を読み取っている。	している。		
Ⅰ 本時	承久の乱	御家人の立場から当時の社会状況について考え、自分の意見を伝える事ができる。	承久の乱が社会に与えた影響について資料から考察する事ができる。	学習課題の追究を通して、主体的に討論・意見交換にかかわり、よりよい社会的判断を行うことができる。	観察 ワークシート 発表
Ⅰ	武士と民衆の生活	鎌倉幕府の農業技術や手工業・商業の発達と、それに伴う生活の向上について理解している。	鎌倉時代の武士や庶民の生活について、地頭による荘園支配や定期市などの産業の発達と関連付けて考察し、表現している。		観察 ワークシート 発表
Ⅰ	鎌倉時代の文化と宗教		鎌倉時代の文化や宗教の特色について、文化の担い手の変化に関連付けて考察し、表現している。		観察 ワークシート 発表

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ア 鎌倉幕府の特色について、主従制度や承久の乱に着目して考察し、表現する。
- イ 「1221年の承久の乱で、あなたはどちらの味方になるか考えよう」という問いに対して、仲間と考えを交流し合いながら、自分の考えを深め、わかりやすく伝えることができる。
- ウ 承久の乱当時の御家人の立場を追体験することによって、当時の社会状況やこの乱が社会に与えた影響について考えることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 1221年の承久の乱で、あなたはどちらの味方になるか考えよう。 </div> <p>2 この時代の御家人の立場であることを確認する。</p>	<p>○正解・不正解ではなく、資料や多数の意見から思考し、それを明確にすることが大切だということを確認する。</p>
展開	<p>3 資料1～4を読み、立場を確認する。 ・朝廷側と幕府側に分かれさせる。</p> <p>4 個人の意見をまとめる。 ・自分の意見をワークシートに書かせる。</p> <p>5 各グループで意見交換をする。 (1)学習課題に対する最初の判断を確認する。 (2)グループ内で意見交換をさせる。</p> <p>6 討論を行う。 (1)それぞれの立場を支持する理由を発表する。 (2)お互いに、それぞれの立場を支持する生徒に対して、質問をする。 (3)反論を行う。</p> <p>7 個人の意見をまとめる。 ・意見交換や討論を受けて、自分の意見をワークシートに書かせる。</p>	<p>○資料を読む。</p> <p>○黒板にネームプレートを貼り、それぞれの立場を支持する生徒の数を確認する。</p> <p>○迷っている生徒は、少数派の立場に立つように指示をする。</p> <p>○資料を基に、立場と根拠を明確にさせ、根拠を添えて記述させる。</p> <p>○参考になると思われる意見は、メモを取るよう指示をする。</p> <p>○生徒の発言に対して、適切な言葉かけを行い、円滑に進むように配慮する。</p> <p>○最初の選択と変えても良いことを伝える。</p>
まとめ	<p>8 最終決定の意見を発表する。 ・数名の最終意見を発表させる。</p> <p>9 教師の話</p>	<p>○考えが変わった生徒、変わらなかった生徒の1～2名に発表させる。</p>

学習課題 1221年の承久の乱で、あなたはどちらの味方になるか考

11/28 名前【 】

『資料1～4を読んで、』

①あなたが御家人だったら、どちらの味方になりますか。丸を付けましょう。

朝廷側

幕府側

②なぜ、そう考えたのか根拠を書きましょう。

【幕府側】に味方します。なぜなら、資料【3】の「政子の訴え」で

昔、御家人は朝廷の警備について辛い生活を送っていたことと、

頼朝公が安心に暮らせるようにしてくださった

というところから、幕府側についての方が頼朝公のご恩も忘れず、

朝廷が支配する世の中になっってしまうことを止めることができる だと思うからです。

③他の意見をメモしよう。

朝廷側

命令に従って型どまりに
麗装がもらえる
豊かな生活ができる

幕府側

つらい生活に戻らほ
領地をいれたら、おとなしい
事の解決

最終決定!

～議論・検討した結果～

④あなたが御家人だったら、どちらの味方になりますか。丸を付けましょう。

朝廷側

幕府側

⑤なぜ、そう考えたのか根拠を書きましょう。

・考えが（変わった（変わらなかった））のは、領地をいけて、

安心に暮らせるようにしてくださったのは頼朝公で、朝廷側については、

またつらい生活に戻ってしまう

という理由からです。

学習課題 1221年の承久の乱で、あなたはどちらの味方になるか考えよう。

名前【

『資料1～4を読んで、』

①あなたが御家人だったら、どちらの味方になりますか。丸を付けましょう。

朝廷側

幕府側

②なぜ、そう考えたのか根拠を書きましょう。

【朝廷側】に味方します。なぜなら、資料【1】の命令に従ったものは、褒美は望むまま手えられると心得よ

というところから、命令に従えば、自分がほしいものを手に入れ、豊かな生活ができる
だと思うからです。

③他の意見をメモしよう。

朝廷側

1. 北条 時義がしようと思ったことをしいないから。
1. 命令に従えば、必ず褒美をもらえる

幕府側

3. 今までのご恩がまわらなくなって、ほうし、踏み荒らされたら、安心して暮らせない。

幕府が勝ったら、立場をより理解して暮らす

最終決定!

～議論・検討した結果～

④あなたが御家人だったら、どちらの味方になりますか。丸を付けましょう。

朝廷側

幕府側

⑤なぜ、そう考えたのか根拠を書きましょう。

• 考えが（変わった 変わらなかった）のは、もし幕府側が勝っても、必ず褒美をもらえるわけではない、豊かな生活ができるかわからないけど、朝廷側だったら勝ったら必ず褒美をもらえるから豊かな生活ができる
という理由からです。